

2022年3月期 第3四半期 決算の概要



千葉銀行Webサイト
〔IRライブラリ〕

2022年2月4日
株式会社 **千葉銀行**
(東証第1部：8331)

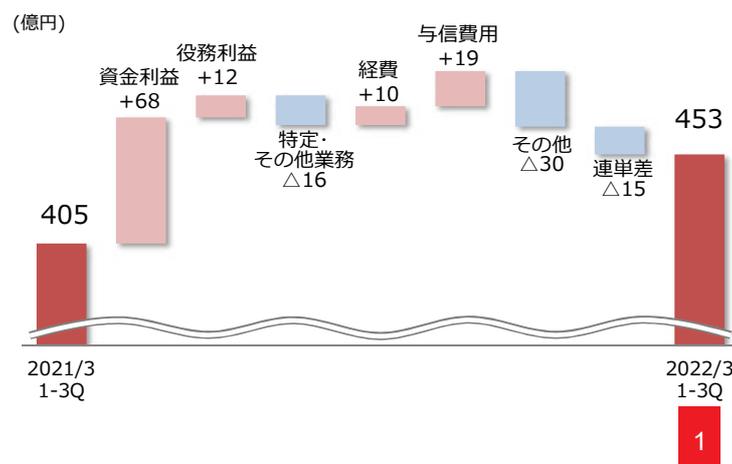
- 皆さまこんにちは。千葉銀行経営企画部の官澤でございます。
- 本日は、お忙しい中、スモールミーティングにご参加いただきまして、ありがとうございます。
- これより、2022年3月期 第3四半期決算の概要について、取締役専務執行役員の篠崎より10分程度ご説明した後、質疑応答を行います。会議全体の時間は最大で60分を予定しております。
- 資料につきましては、弊行ホームページに掲載してあります「決算の概要」を使用しますのでご覧ください。
- それでは、よろしく願いいたします。

業績概要

単体	(億円)	2021/3	2022/3	前年同期比
		1-3Q	1-3Q	
業務粗利益		1,184	1,248	64
資金利益		951	1,019	68
役務取引等利益		182	195	12
特定取引利益		12	8	△ 3
その他業務利益		37	24	△ 13
うち債券関係損益		1	8	7
経費 (△)		647	637	△ 10
実質業務純益		536	611	74
コア業務純益		535	602	67
除く投資信託解約損益		497	570	72
一般貸倒引当金繰入額 (△)		13	3	△ 9
業務純益		523	607	83
臨時損益		9	13	3
うち不良債権処理額 (△)		33	23	△ 10
うち株式等関係損益		44	24	△ 20
経常利益		533	620	87
特別損益		△ 0	△ 0	△ 0
四半期純利益		384	448	63
与信関係費用 (△)		46	27	△ 19
連結	(億円)	2021/3	2022/3	前年同期比
		1-3Q	1-3Q	
連結経常利益		581	650	68
親会社株主に帰属する四半期純利益		405	453	48

- ◆ 資金利益が前年同期比+68億円と10年ぶりの高水準であり、役務取引等利益は同+12億円と過去最高を更新、業務粗利益も同+64億円と12年ぶりに過去最高益を更新
- ◆ 新本店ビル関連費用の減少を主因に経費は同△10億円
- ◆ 投信解約損益を除くコア業務純益は同+72億円の増益と3期連続増益であり、本業収益の好調を維持
- ◆ 与信関係費用は同△19億円と減少しており、新規発生は同△12億円の32億円に留まる
- ◆ 四半期純利益は単体が4年ぶりに過去最高を更新しており、通期計画に対する進捗は単体が91%、連結が87%と順調に推移

親会社株主に帰属する四半期純利益の増減要因 (単体+連単差)



○ 皆さまこんにちは。篠崎でございます。資料に基づき説明いたしますので1ページをご覧ください。

○ まず、業績の概要です。

○ 業務粗利益は、前年同期比64億円増加し、第3四半期累計として12年ぶりに過去最高を更新しました。

○ 資金利益が68億円増加し、役務取引等利益が12億円増加したことなどが貢献しています。

○ 一方で、経費が10億円減少した結果、投信解約益を除くコア業務純益も72億円の増加と、本業収益の好調を維持しています。

○ 与信関係費用は19億円減少しており、通期計画に対する四半期純利益の進捗は、単体が91%、連結が87%と順調に推移しています。

○ 2ページをご覧ください。

連結	(億円)	2021/3	2022/3	前年同期比
		1-3Q	1-3Q	
連結粗利益		1,261	1,320	58
資金利益		920	982	61
役務取引等利益		262	279	16
特定取引利益		40	35	△ 5
その他業務利益		37	23	△ 13
営業経費 (△)		704	685	△ 19
与信関係費用 (△)		46	33	△ 12
一般貸倒引当金純繰入額 (△)		15	4	△ 10
不良債権処理額 (△)		30	28	△ 2
株式等関係損益		44	23	△ 21
持分法投資損益		1	0	△ 0
その他		24	23	△ 1
経常利益		581	650	68
特別損益		△ 0	△ 1	△ 0
税引前当期純利益		580	649	68
法人税等合計		175	195	19
四半期純利益		405	453	48
非支配株主に帰属する四半期純利益		-	-	-
親会社に帰属する四半期純利益		405	453	48
(参考)				
連結業務純益		601	675	74

子会社の状況

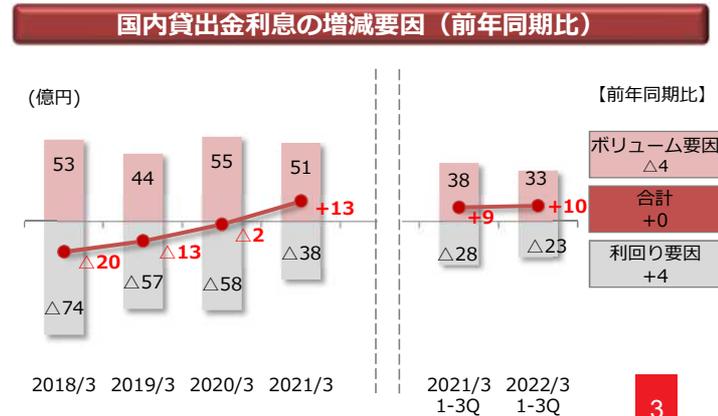
【連結子会社】		【持分法子会社】			
会社名	出資割合 (間接含む)	利益項目 (子会社間配当控除後)	2021/3 1-3Q	2022/3 1-3Q	前年同期比
ちばぎん証券	100%	経常利益	12	12	△ 0
		四半期純利益	8	8	0
ちばぎんリース	100%	経常利益	11	6	△ 4
		四半期純利益	7	4	△ 2
ちばぎん保証	100%	経常利益	46	39	△ 6
		四半期純利益	29	25	△ 4
ちばぎん ジェーシービーカード	100%	経常利益	7	7	0
		四半期純利益	4	5	0
その他5社 合計	100%	経常利益	5	5	△ 0
		四半期純利益	3	3	△ 0
合計		経常利益	82	72	△ 10
		四半期純利益	54	47	△ 6
6社 合計		持分法に応じた 四半期純利益	1	0	△ 0
		親会社への配当(△)	35	42	7
		連単差 ※	20	5	△ 15

※未実現利益等の調整後

- 上期より、連結の決算概要を開示しております。
- 右側の表は、子会社決算の状況となります。
- ちばぎんリースで中途解約の減少、ちばぎん保証では前年に与信費用の戻し入れがあった反動などから減益となりました。
- また、子会社の前期好決算を受けて親会社への配当を増加させたことから、連単差は前年同期比1.5億円の減少となっています。
- 3頁をご覧ください。

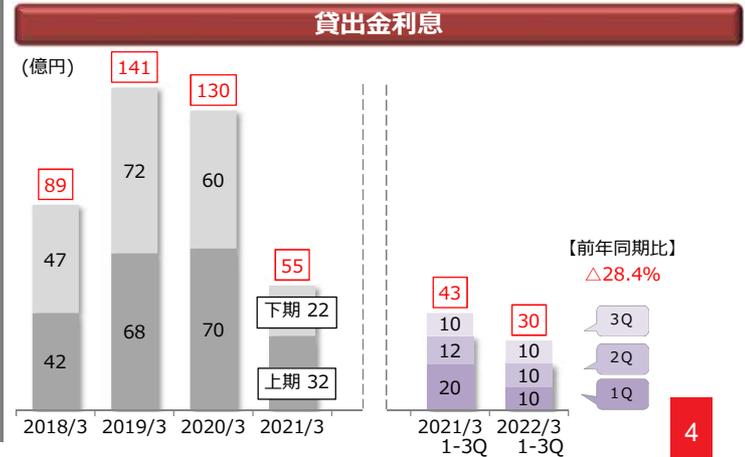
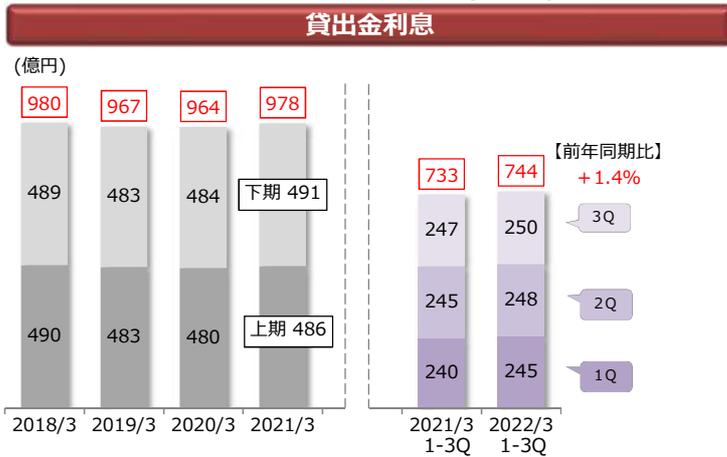
資金利益

(億円)	2021/3	2022/3	前年同期比
	1-3Q	1-3Q	
資金利益	951	1,019	68
国内資金利益	896	954	58
預貸金利息	729	740	10
貸出金	733	744	10
預金+NCD (△)	4	4	△ 0
有価証券利息配当金	160	195	34
債券	19	19	△ 0
株式配当金	81	94	12
投資事業組合	△ 0	5	5
投信	58	75	16
うち解約益	24	27	2
その他 (市場運用調達等)	6	19	12
国際資金利益	55	64	9
貸出金	43	30	△ 12
外国証券	95	95	△ 0
外国証券	67	63	△ 3
外貨ファンド	13	25	12
投信	15	6	△ 8
うち解約益	13	5	△ 8
その他 (調達、市場運用等)	△ 83	△ 61	22
資金利益 (除く投信解約益)	913	987	74
投信解約益	38	32	△ 5



- 国内部門の資金利益は、株式配当金や投信分配金の増加から有価証券利息配当金が前年同期比34億円増加と好調であり、貸出金利息も10億円増加と順調であったことから、全体では58億円増加しました。
- 国際部門の資金利益は、前年同期に行っていた厚め・長めの外貨調達を正常化させたことにより調達コストが減少したことに加えて、外貨ファンドの配当等が好調であったことから、全体では9億円増加しました。
- この結果、資金利益全体では68億円の増益となり、第3四半期として10年ぶりの高水準となりました。
- 4頁をご覧ください。

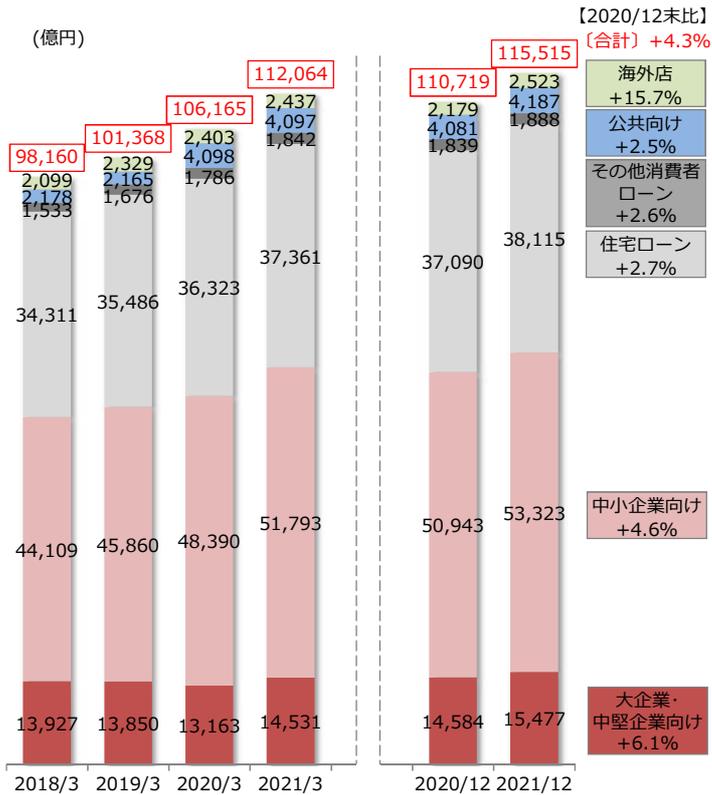
利回り・貸出金利息



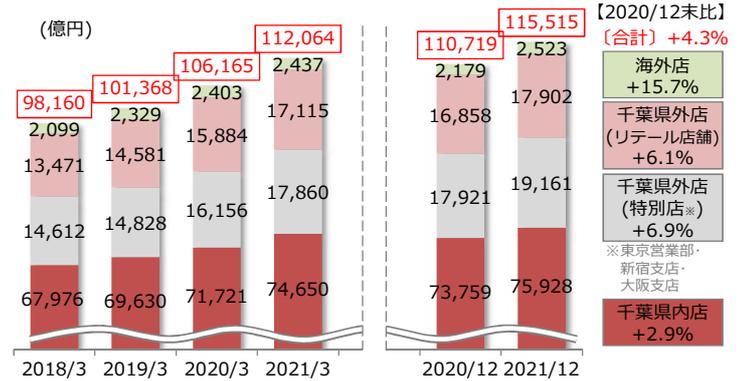
- 国内部門の貸出金利回りは低下傾向が続いておりませんが、低下幅は縮小傾向にあります。
- また、国際業務部門では、世界的な金利低下により貸出金利回りは低下していますが、スプレッドは安定しています。
- 5頁をご覧ください。

貸出金・預金

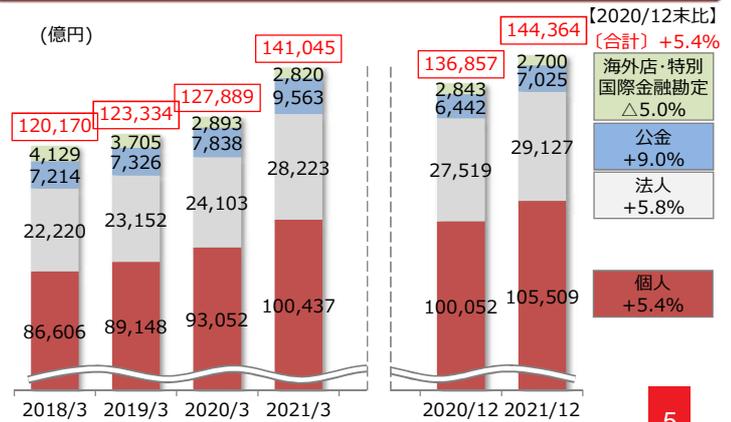
貸出金末残



貸出金末残 (エリア別)



預金末残



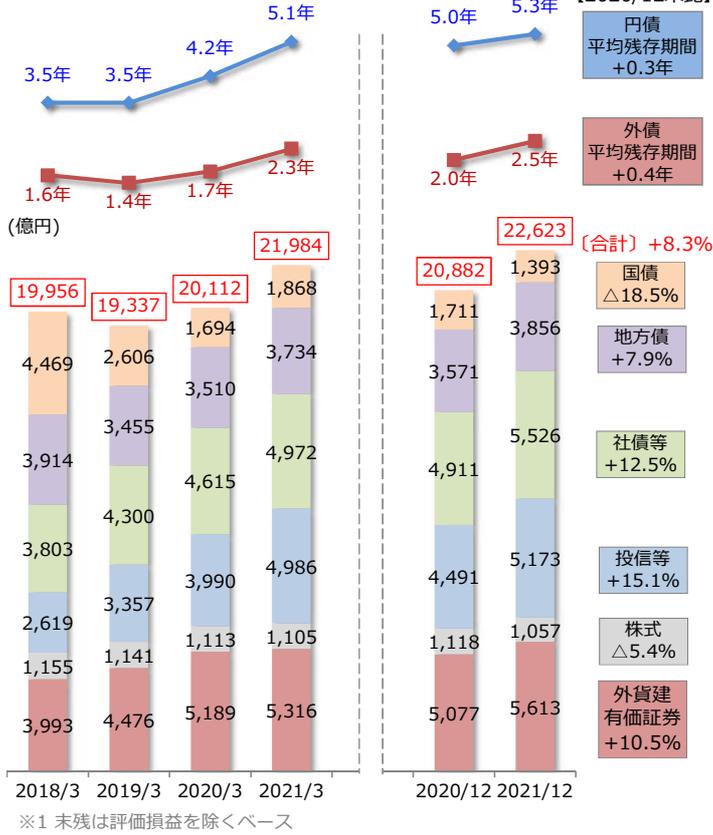
- 大企業・中堅企業、中小企業向け貸出、住宅ローン、無担保ローンは、それぞれ堅調なペースを維持しており、貸出金は全体で4.3%増加しました。
- 預金も、5.4%増加と順調に推移しています。
- 6頁をご覧ください。

有価証券

有価証券末残※1・平均残存期間※2

※2 平均残存期間はアセットスワップ考慮後のベース

【2020/12末比】

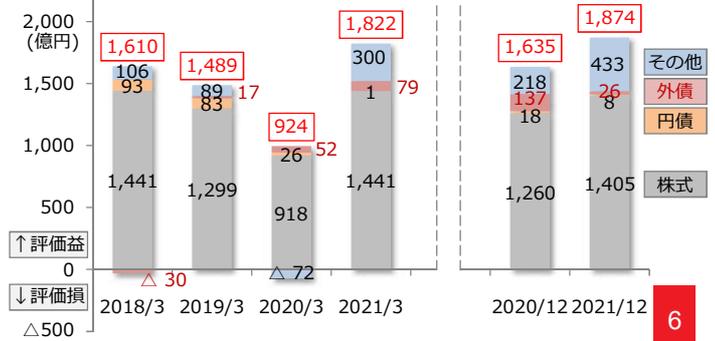


有価証券関連損益

(億円)	2021/3		2022/3	
	1-3Q	1-3Q	1-3Q	前年同期比
有価証券利息	256	290	34	
債券	86	82	△4	
国内業務部門	19	19	△0	
国際業務部門	67	63	△3	
株式	81	94	12	
投信等	87	113	26	
うち投信解約損益	38	32	△5	
国債等債券損益	1	8	7	
うち売却益	15	15	0	
株式等関係損益	44	24	△20	
うち売却益	46	50	4	

その他有価証券評価損益

※海外CDを含むベース

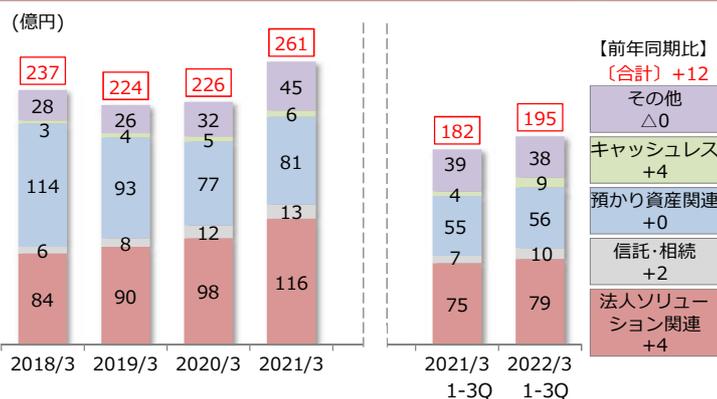


- 有価証券残高は、約2兆2,600億円となりました。
- 「その他有価証券 評価損益」は、3月末比で52億円改善しております。
- 7頁をご覧ください。

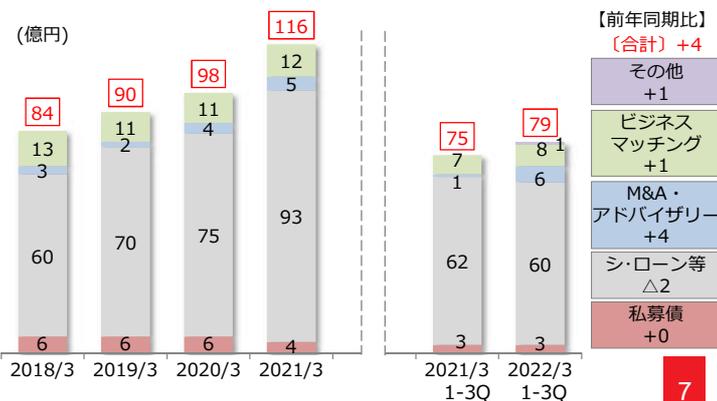
役務取引

(億円)	2021/3	2022/3	前年同期比
	1-3Q	1-3Q	
役務取引等利益	182	195	12
役務取引等収益	319	331	12
役務取引等費用(△)	136	136	△0
＜主な内訳＞			
うち預かり資産関連	55	56	0
うち投信手数料	25	30	5
うち年金・一時払終身保険手数料	9	9	△0
うち平準払保険手数料	15	10	△4
うち金融商品仲介手数料	5	5	0
うち法人ソリューション関連	75	79	4
うち私募債	3	3	0
うちシ・ローン等	62	60	△2
うちM&A・アドバイザー手数料	1	6	4
うちビジネスマッチング手数料	7	8	1
うち信託・相続関連	7	10	2
うちキャッシュレス関連	4	9	4
うち為替関連	99	95	△3
うちローン支払保険料・保証料(△)	85	84	△0

役務取引等利益



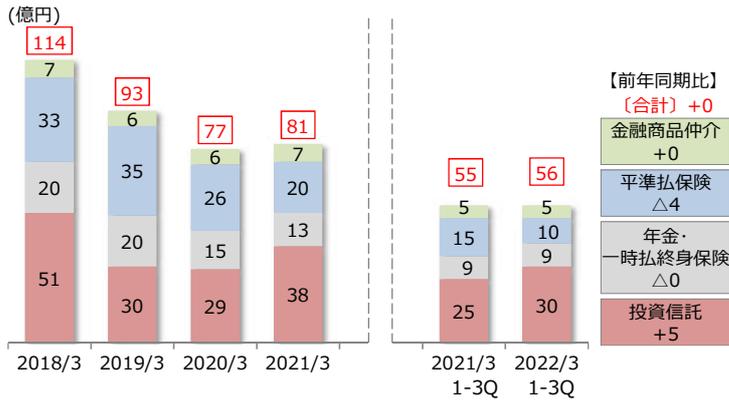
法人ソリューション関連収益



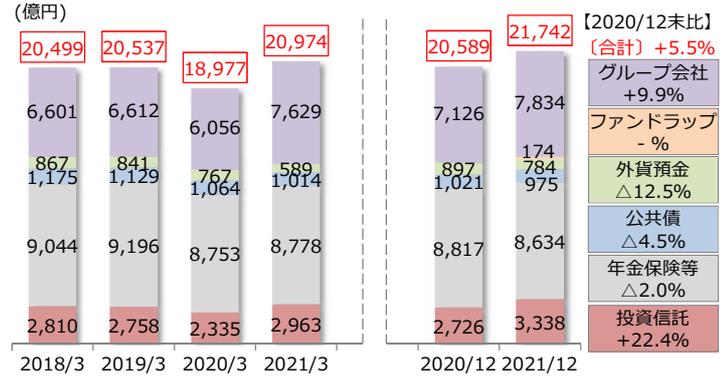
- 役務取引等利益は、前年同期比12億円増加の195億円と第3四半期累計として過去最高を更新しました。
- M&A・アドバイザー・ビジネスマッチングなどの非ファイナンス関連が好調であった法人ソリューション関連が4億円増加と順調に推移しています。
- また、コロナ禍で飲食店における利用が想定ほど進まずにやや苦戦していたキャッシュレスに関しても、医療関連における利用が進んだことなどから、4億円増加と倍増しています。
- 8頁をご覧ください。

預かり資産

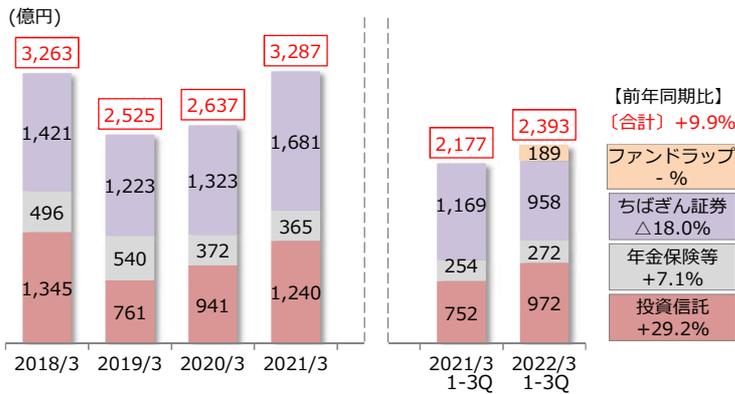
預かり資産関連収益



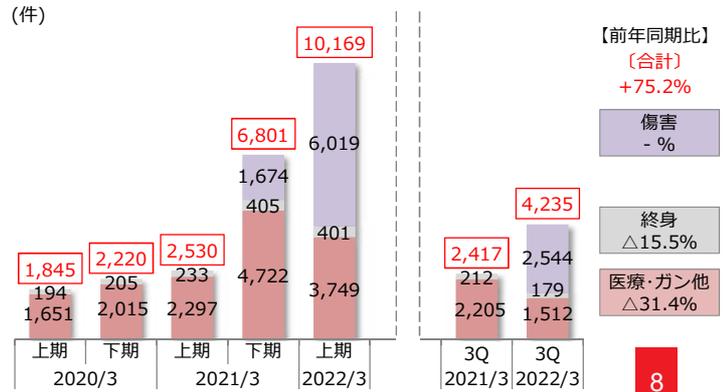
預かり資産残高 (グループ合計)



預かり資産販売額 (グループ合計)



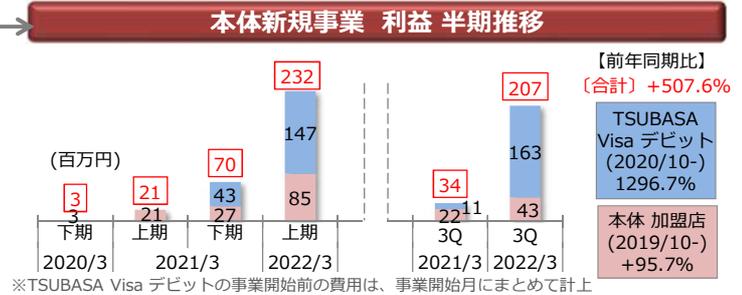
保障性保険 取扱件数



- 預かり資産関連は、収益・販売額ともに前期並みとなっています。
- 平準払い保険は、世界的な低金利を受けて利回りが低下している貯蓄性の販売が低調であり、手数料は減少しています。
- 一方で、「ほけんの窓口」や専担者の配置により、資産形成層への提案を強化している保障性保険に関しては、取扱件数が大幅に増加しており、今後も拡大を目指してまいります。
- 9頁をご覧ください。

キャッシュレス事業収支				
		2021/3	2022/3	前年同期比
		(百万円)	1-3Q	1-3Q
本体事業 合計	利益	488	965	477
	収益	1,725	2,436	711
	費用(△)	1,236	1,471	234
本体 新規事業 合計	利益	55	439	384
	収益	174	850	675
	費用(△)	118	410	291
本体 加盟店	利益	44	129	84
	収益	154	495	341
	費用(△)	109	366	256
TSUBASA Visa デビット	利益	11	310	299
	収益	20	354	334
	費用(△)	8	43	35
本体 既存カード 事業	利益	432	525	93
	収益	1,550	1,586	35
	費用(△)	1,118	1,060	△ 57
関連会社 (ちばぎんJCB ちばぎんDC)	利益	869	875	6
	収益	3,582	3,640	57
	費用(△)	2,713	2,764	50
(参考)				
グループ 合計	利益	1,357	1,841	483
	収益	5,307	6,077	769
	費用(△)	3,950	4,236	285

※関連会社の費用には、人件費等の営業費用も含めて記載

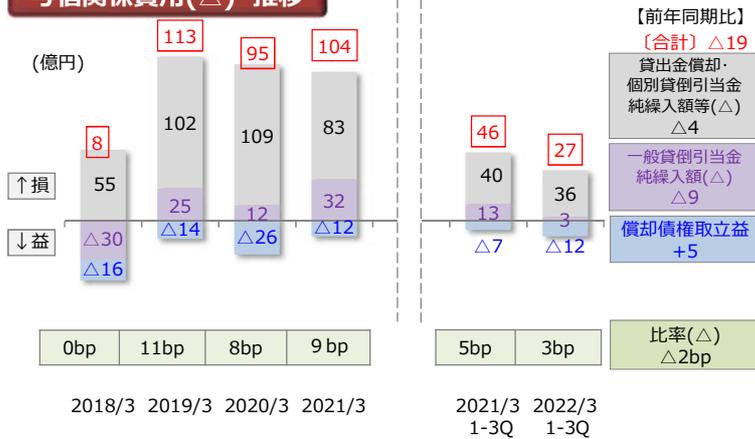


- キャッシュレス事業に関しては、加盟店数や会員数が着実に増加しており、取扱高も拡大しています。
- 第3四半期までの累計収益は、本体事業・グループ合計ともに前年同期比5億円近く増加しており、収益貢献度合いが大きくなってきています。
- 今後は、大口先における利用も見込まれており、収益のさらなる積上げを図ってまいります。
- 10頁をご覧ください。

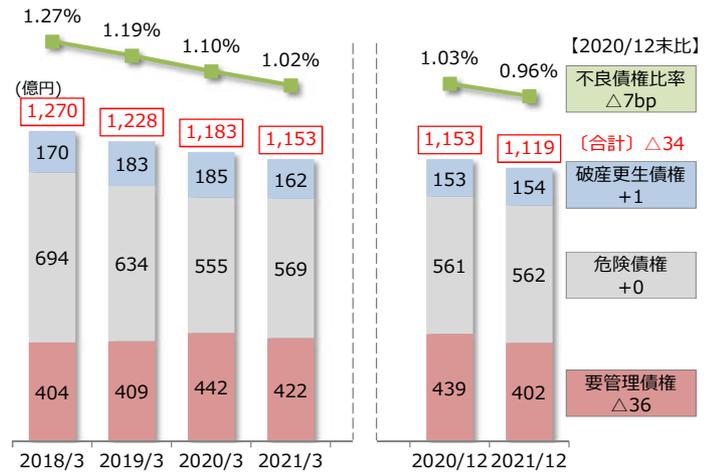
与信関係費用

(億円)	2021/3	2022/3	前年同期比
	1-3Q	1-3Q	
与信関係費用 (△)	46	27	△ 19
一般貸倒引当金純繰入額 (△)	13	3	△ 9
不良債権処理額 (△)	33	23	△ 10
貸出金償却・個別貸倒引当金純繰入額等 (△)	40	36	△ 4
うち新規発生 (△)	44	32	△ 12
うち既先 (△)	3	8	4
うち回収等	7	4	△ 3
償却債権取立益	7	12	5
与信費用比率 (△)	5bp	3bp	△2bp

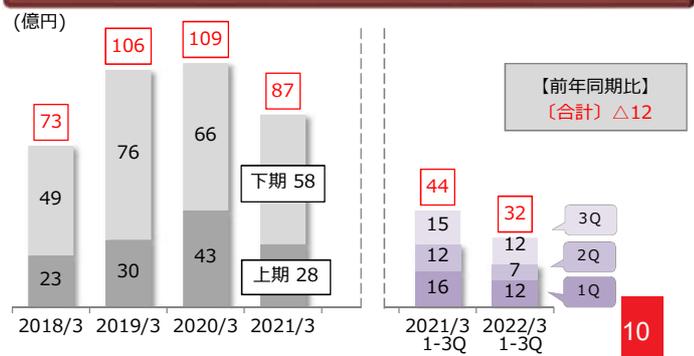
与信関係費用(△) 推移



金融再生法開示債権・不良債権比率



不良債権 新規発生

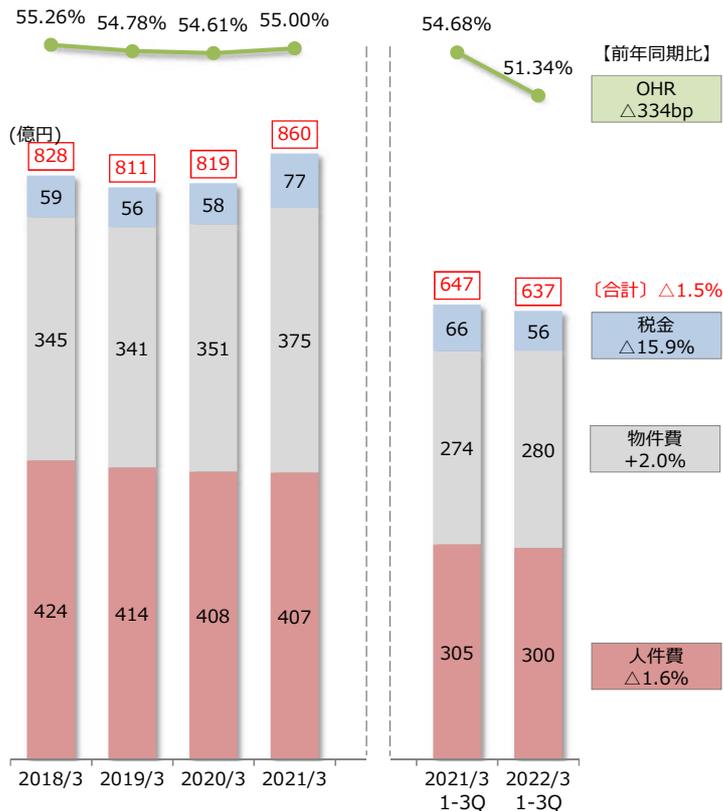


- 与信関係費用は、前年同期比19億円減少の27億円となりました。
- 正常先の引当率が低下したことで一般貸倒引当金純繰入額が9億円減少しており、年間で110億円を計画する新規発生は32億円と抑制できています。
- 不良債権比率は、0.96%まで低下しており、地銀トップレベルの健全性を維持しています。
- 11頁をご覧ください。

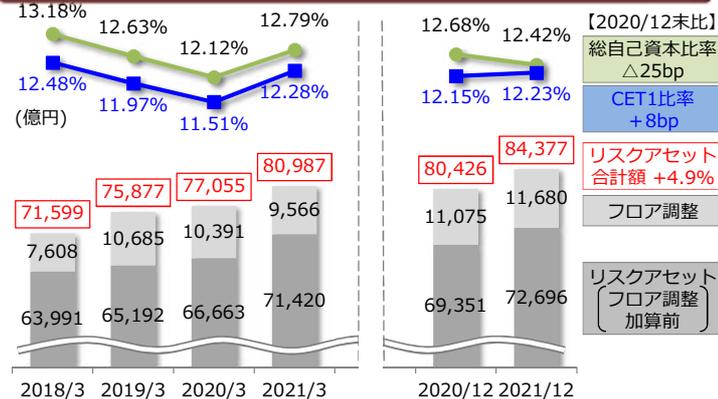
経費・自己資本比率

経費・OHR

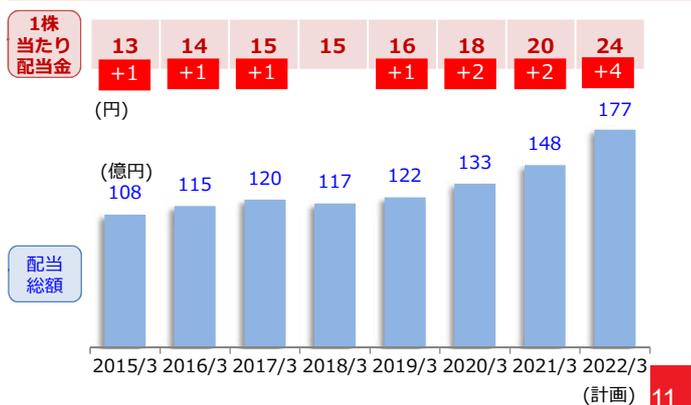
※ OHR：経費÷（業務純益－債券関係損益等＋一般貸倒引当金繰入額＋経費）



連結 自己資本比率・リスクアセット額



株主配当



- 経費は、新本店ビル関連費用が減少したことから前年同期比10億円減少しました。業務純益の拡大もあってOHRは51%台に低下し、引続き邦銀トップクラスの効率性を維持しています。
- 連結の普通株式等Tier I比率は12.23%と、十分な水準を維持しています。
- また、今回の決算発表に合わせて2円増配を公表しており、年間配当金は前年度比4円増加の24円となる見込みです。
- 本件により連結配当性向は34%まで高まる見込みであり、今後も地域への安定的な資金供給に必要な健全性を維持しながら、自己株式の取得も含めて、さらなる成長に向けた資本活用とのバランスを勘案した株主還元を行ってまいります。
- 12頁をご覧ください。

SDGsの取組み①

ESG外部評価

CDP※ 気候変動スコア

邦銀として最高水準の「A-」を取得 **New**

※ Carbon Disclosure Project : 英国のNGOであり、企業等の環境影響を管理するための情報開示システムを運営

◆ 世界平均 : 「B-」

	地方銀行	大手行等
A-	千葉	みずほFG
B	ふくおかFG 八十二	MUFG SMFG りそなHD
B-	1社	1社
C	1社	2社
F	多数 (未回答企業)	

MSCI ESG Rating

メガ3行と同水準の「A」を取得 **New**

ちばSDGs推進ネットワーク

(2022年1月発足) **New**

ちばSDGsパートナー登録制度の制定

千葉県内
お客さま

- SDGs普及や啓発、伴走支援
- ネットワーク会員同士の情報共有・連携
- お客さまに「ちばSDGsパートナー登録制度」を周知し登録を促す



- 千葉県商工会議所連合会
- 千葉県商工会連合会
- 千葉県経済同友会
- 千葉県中小企業団体中央会
- 千葉県経営者協会
- 千葉県中小企業家同友会
- 千葉県経済協議会
- 千葉県信用保証協会

「ちばぎん研修センター」を新型コロナウイルス感染症の臨時医療施設・宿泊療養施設として提供 **New**

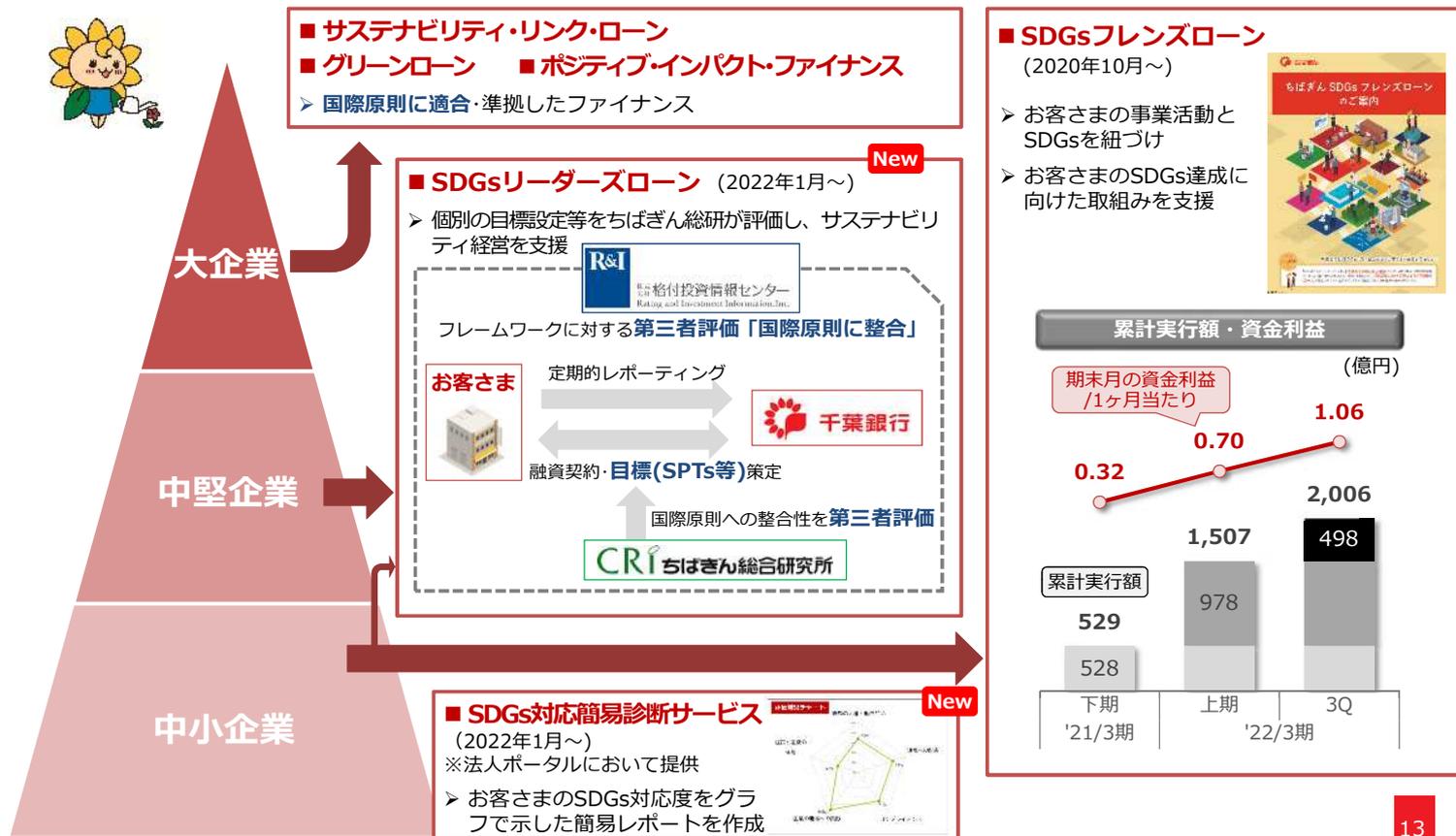
- ◆ 屋内：短期入院用ベット110床
- ◆ 屋外：プレハブ型宿泊療養施設50床



12

- ここからは、最近のSDGsに対する取組みをご紹介します。
- まず左上に記載しましたように、昨年12月に、英国の環境影響に係る情報機関であるCDPから、邦銀最高水準となる「A-」の気候変動スコアを取得するなど、当行の環境に係る取組みは高い外部評価を得ています。
- また、左下に掲載しましたが、新型コロナウイルス感染症における臨時の医療施設・宿泊施設として当行の稲毛研修センターを県に提供しており、オミクロン株が拡大する中で活用されています。
- 続いて右側をご覧ください。1月に千葉県や県内地銀3行、経済団体などが会員として参加する「ちばSDGs推進ネットワーク」が発足しました。このネットワークを活用して、SDGsの普及・啓蒙活動や、SDGsの取組み支援活動をさらに強化することで、地域社会の持続的成長に貢献してまいります。
- 13頁をご覧ください。

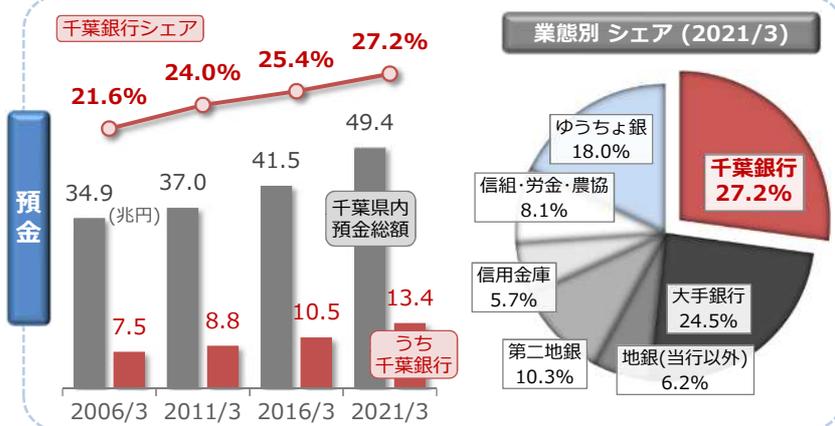
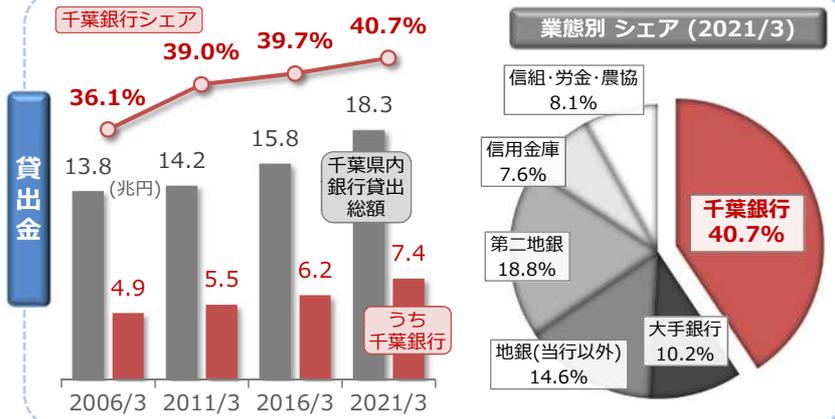
お客さまに合わせたSDGs商品を提供



13

- 続いて、法人のお客さまに提供するSDGs商品のラインナップをご紹介します。
- 大企業向けには「国際原則に適合した」サステナビリティ・リンク・ローンなどを積極的に推進しておりますが、中小企業向けとなる「SDGsフレンズローン」も取扱開始から1年3ヶ月で累計2,000億円の実行と、着実に実績が積みあがっております。
- このような中、1月に、中堅企業向けについても「SDGsリーダーズローン」の提供を開始しました。
- この商品は、「国際原則に整合」することについて、フレームワークに対する第三者評価をR&Iから取得し、個別の目標設定等に対する第三者評価をちばぎん総研が行う仕組みとなっており、お客さまの費用負担を抑えながら、サステナビリティ経営を目指すことが可能となっています。
- その他、下段に記載しましたように、法人ポータルにおいて「SDGs対応簡易診断サービス」を提供するなど、お客さまのSDGsに対する取組みの支援を強化しています。
- 14頁をご覧ください。

千葉県内 残高・シェア

千葉県の経済規模 (世界主要国と比較)
千葉銀行の総資産 (最大銀行との比較)

国名	GDP	国内(地域)最大銀行	総資産 (億円)
チェコ	2,489	CSOB Czech Republic	821
ポルトガル	2,424	Caixa Geral de Depositos	1,128
ギリシャ	2,123	National Bank of Greece	956
ニュージーランド	2,100	ANZ Bank New Zealand	1,190
千葉県	1,770	千葉銀行	1,616
ハンガリー	1,604	OPT Bank	784

出所：主要国GDPはIMF World Economic Outlook、千葉県GDPは内閣府統計
(主要国は2018年1～12月、千葉県は2018年4月～2019年3月のデータ)
国内最大銀行の総資産はThe Banker(2021年版)

外部格付 (Moody's 長期格付)

(2022年1月31日時点)

	地方銀行	大手行等
A1	千葉 静岡	三菱UFJ みずほ 三井住友 三井住友信託
A2	横浜 中国	りそな
A3	福岡 常陽	

14

- 最後に、改めまして当行の位置付けについて簡単にご説明します。
- 千葉県の発展に合わせて、県内の銀行貸出・預金残高は増加傾向をたどっていますが、その中でも当行はシェアを拡大しており、足元のシェアは貸出金で40.7%、預金で27.2%と、千葉県のトップバンクとしての地位を確立しています。
- また、千葉県の経済規模はニュージーランドやハンガリー・ギリシャなどと同程度であり、それらの国々における最大の銀行と総資産を比較すると当行は1.5倍～2倍の規模を有していることから、当行が世界的にも相応の地位にある銀行であることを改めてお分かりいただけるかと思えます。
- これらの千葉銀行の強み、「成長する千葉県における圧倒的なシェア」「健全な財務基盤」「安定した収益構造」などを反映して、Moody'sからは大手行と同水準となる外部格付「A1」を取得するなど、高い外部評価を得ています。
- 以上で、私からの説明を終わりにします。ご清聴、ありがとうございました。

本資料に関するご意見、ご感想、お問い合わせは
下記 I R 担当までお願いいたします。

株式会社 千葉銀行経営企画部（I R 担当）

Tel : 043-301-8459

Fax: 043-242-9121

E-Mail: ir@chibabank.co.jp

本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。

本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には、将来の業績にかかる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。